

ネパール ごみ

環境教育と地域住民主体の環境保全活動を通じた地域コミュニティの強化

ゴミの問題に向き合うために、自分の生活の“事実”を一つずつ確かめていく

2018年度の活動

2018年度は、ゴカルネシオール市にあるアルバリ地域でゴミ回収の仕組みをつくり、実行しようとする女性グループの活動をサポートしました。一つの集落では、集落の人口やゴミの排出量／種類を調べ、それをもとに分別ルールを作ることに挑戦しました。この活動の様子を見ていた、アルバリ地域を管轄する自治体もゴミの分別回収に関心を持ち、地域住民が利用できる資源回収場所の設置に取り組み始めました。

2018年度をもって、ムラのミライのネパールでの活動は終了しますが、プロジェクトに参加した地域住民が中心となって、自分たちでできることを一つずつ継続・普及していくことを期待しています。

プロジェクトについて

どこで ネパール連邦民主共和国 ゴカルネシオール市

だれと 上記に居住する住民

((公財)りそなアジア・オセアニア財団「環境プロジェクト助成」:
ネパール・バグマティ川再生のはじめの一步 親子で学ぶ川の環境)

活動パートナー SOMNEED Nepal ※ネパールのNGO

なにを 2012年から始まった、バグマティ川の浄化と環境教育で、地域のつながりを取り戻す活動。日々学校や家庭で排出されるゴミが川や土、空気に悪影響を与える仕組みを知ったうえで、ゴミにどう対処していくかを、地域住民が自分たちで考え実行することをサポートしています。

名護市 地域づくり

コミュニティファシリテーターを 育てる研修

「自分がここで暮らすならば」—外部者としてコミュニティに関わるとき、当事者意識を持つことなしには、コミュニティの将来を決める局面にまともに関わるなどできない

2018年度の活動

2016年12月から約一年半にわたる、全4回の研修。

2018年7月に最終回となる第4回研修を開催しました。全4回の研修を通して与えられた課題は、「私が久志地区に住むとしたら、どんな生活を築いていくか」という地域計画づくり。地域の資源をもとにしたエネルギーや食糧の需給、その持続可能性について当事者意識をもって考えるために、新たに入植した開拓民のつもりで観察し、聞き取り、調べることが研修の中で課されました。研修参加者にとって、コミュニティとは何か、外部者としての関わりとは何かということを再定義することを促す契機となることを試みた研修になりました。

プロジェクトについて

どこで 沖縄県名護市久志地区

だれと 途上国や国内での地域づくりに関する活動を行っているNGO等の職員19人、研修実施地域の区長12人、名護市職員25人

(JICA「NGO等提案型プログラム」:コミュニティファシリテーターを育てる実践研修～メタファシリテーションを用いた、住民主体による地域づくり)

活動パートナー 名護市

なにを 沖縄県名護市との協働による研修プログラム。3泊4日×全4回シリーズの研修で、地域コミュニティによる課題分析→活動の形成・実施・・・というプロセスを実際に起こしていくことのできるファシリテーターを育成していきます。